

1. 評価結果概要表

作成日 21年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1872000284
法人名	有限会社グループホーム福井
事業所名	グループホーム・越前
所在地	丹生郡越前町米ノ56-17-1 (電話) 0778-39-1702

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】 (21年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人、非常勤 2 人、常勤換算 11.0 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1050 円	

(4)利用者の概要

利用者数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均 84.7 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	両林病院 丹南病院 岸レンタルクリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、日本海沿岸の漁業が盛んな越前町にある。やや勾配のある階段を登った場所に事業所があるため高台に位置しており、窓からは日本海の四季折々の景色が望める。また、ホームの玄関にはベンチを設置し、入居者が日光浴を楽しめるスペースが設けられている。その他、事業所の周囲のプランターに植えられた花や温かみのある手作りの表札は、来訪者や入居者の目を楽しませている。
 建物は、昭和60年に建てられた鉄筋2階建ての民宿を改造したもので、食堂・台所・居間は1階に、居室は1階と2階にある。こじんまりとしているのでどこにいても人の気配を感じることができる家庭的な空間となっている。また、浴室は清潔で広くゆったりと入浴が楽しめる造りとなっている。
 管理者は、ホームの理念に沿ったサービスが提供できるように利用者の不満・不安・悩みなどに耳を傾けると共に、職員の育成にも日々取り組んでいる。周辺地域の職員が多く、夜間等の入居者の急変時や緊急時にもすぐに駆けつけ対応ができるようになっており、入居者・家族が安心できる体制になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘のあったプライバシーの確保について、トイレの入口をカーテンからアコーディオンカーテンに変更している。また、食事についても職員1名が入居者と同じ食事を取るようしており、それ以外の職員も一緒にテーブルにつき入居者と会話しながら見守りや介助している様子がうかがえた。災害対策に関しては、地域との協力体制は確立されているが、ハザードマップの超危険区域に立地していることを踏まえ、火災以外の土砂崩れや水害等の自然災害が発生した場合の対策に関して避難経路、避難場所等についての早急の検討が求められる。また、非常時の食料や水等の備蓄も期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価にあたっては、全職員で各項目を割り振り、取り組んだ。職員は、自己評価が地域密着型の事業所で求められていることを学ぶ機会になっていると捉えている。また、管理者等も日頃の自分たちのサービスを振り返る機会として前向きに捉えているが、施設長の評価への関わりが少ないようなので、今後は施設長も含めホーム全体で評価に取り組むことを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議には、入居者家族・町担当者・地域包括支援センター職員・区長・地区民生委員・老人会代表等に参加してもらい12か月に1回開催している。ホームから現状や行事予定等を報告した後、各委員から意見や要望等をもらっている。会議で出た意見や要望は事業所運営に活かしている。会議の場所は、ホームに限らず区民会館を利用するなど、より多くの地域の方が参加できるように工夫している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族は毎月の利用料を事業所で直接支払うことになっており、職員は毎月必ず家族と顔を合わせることができる。その際に声かけしたり、日頃から気軽に意見・苦情等をもらえるような関係作りにも努めている。また、運営推進会議の日程を全家族に案内し参加を呼びかけている。また、家族から意見・要望等があった場合は迅速に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは自治会に加入しており、入居者と職員は地域のふれあいサロンや夏祭り等にも参加している。また、近隣の住民から魚や野菜の差し入れをもらったり、散歩時に挨拶を交わすなど日常的に交流している。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と計画作成担当で開所時の理念を見直し、「入居者と共に」「自然と共に」「地域と共に」という地域密着型サービスの意義が盛り込まれた分かりやすい言葉で表現している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念に沿った支援ができるように、管理者は機会あるごとに職員に理念について説明しており、自分たちの入居者との接し方を見て学んでほしいという思いを持っている。職員は、以前に比べ、サービスの向上を意識して業務に携わるようになってきた。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会に加入している。入居者は、ふれあいサロンに参加し、地域の高齢者と交流したり、夏祭りにも参加している。また、近隣の住民から魚や野菜の差し入れをもらったり、散歩時に挨拶を交わすなど日常的に交流している。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価にあたっては、全職員で各項目を割り振り、取り組んだ。職員は、自己評価が地域密着型のホームで求められていることを学ぶ機会になっていると捉えている。また、管理者と職員も日頃の自分たちのサービスを振り返る機会として前向きに捉えているが、施設長の関わりは少ない。		ホーム全体のサービスの質を向上させるため、施設長も自己評価に取り組むことを期待したい。
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者家族・町担当者・地域包括支援センター職員・区長・地区民生委員・老人会代表等に参加してもらい2か月に1回開催している。ホームから現状や行事予定等を報告した後、各委員から意見や要望等をもらっている。会議で出た意見や要望は事業所運営に活かしている。会議の場所は、ホームに限らず区民会館を利用するなど、より多くの地域の方が参加できるように工夫している。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には、ホームの現状を伝えたり、相談し助言をもらうなど積極的に連携している。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月ホーム全体の便りと入居者個別の様子が書かれた便りを出している。また、病院での受診後など、必要な時には電話で連絡をとるようにしている。金銭管理の出納帳は家族がホームに来られたときに報告し、確認のサインをもらっている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は毎月の利用料を事業所で直接支払うことになっており、職員は毎月必ず家族と顔を合わせることができる。その際に声かけしたり、日頃から気軽に意見・苦情等をもらえるような関係作りに努めている。また、運営推進会議の日程を全家族に案内し参加を呼びかけている。また、家族から意見・要望等があった場合は迅速に対応している。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はない。新採用の職員に対しては、入居者とのスキンシップを大切に、できるだけ早く馴染みの関係を作れるように、他の職員がサポートしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者と介護計画作成担当者は、認知症介護実践者研修・リーダー研修等を受講している。他の職員も機会は少ないが外部の研修に参加している。受講後は研修の報告を全職員に回覧し、内容を共有できるようにしている。		サービスの質の向上を図るため、全職員が外部の研修に参加する機会を確保するよう期待したい。また、職員の経験や希望に応じた研修に参加できる研修計画の作成も期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に加入している。管理者は日頃から近隣の老人福祉施設と連携をとっており、他事業所からの見学や体験も積極的に受け入れている。一方、職員の同業者との交流はあまり行われていない。		同業者との交流を通じた処遇向上のため、職員も他のホームの見学や一日体験、グループホーム連絡会に参加するなどの取り組みを期待したい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が入居希望者の自宅を訪問し話を聴き、顔なじみになるところからはじめている。その後、本人と家族にホームを見学していただき、お茶を飲んだり、希望されれば昼食を一緒に取っていただき本人の精神的な負担を少なくして利用開始できるように配慮している。宿泊の体験も希望があれば可能である。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は馴染みのある地域の方で接し、入居者一人ひとりのこれまでの生活や性格に応じた支援をしている。興奮している利用者にはなだめるだけでなく、時にはぶつかり合うことも人間同士の関わりの中で大切と考えている。また、職員は昔の話や料理の味付け、調理の仕方などを入居者から学ぶなど、共に支えあう関係を大切にしている。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後に関わりを深めていく中で、センター方式を活用し、本人の思いや意向を把握し記録している。また、日々の会話や本人の言動等からも新たに気づいたことを書き加え、全職員で共有している。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。できる限り本人の望む生活に近い介護計画となるように努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6か月毎に見直している。担当職員が月に2回評価を行い、「改善された点」「悪化した点」「その原因と課題」を記録し、次期の計画に反映させている。また、状態の変化が生じたときはその都度見直している。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方でデイサービスを利用している方が、事業所の休日にホームで一日過ごすことができる支援も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での受診継続が可能で送迎も職員が行っている。受診後の結果は電話で家族へ報告するだけでなく、毎月の個別のお便りでも報告している。地域の協力医との関係も良好で、週2回のホームでの診療以外に緊急時にも往診してくれる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、最期は家族の元でという本人の思いを尊重し、そのために家族との関わりを大切にしたいと考えているが、終末期をホームで過ごしたいと希望されればホームでの支援も可能であり、実例もある。重度化した場合には、階段・浴槽などのハード面の問題で介護に限界があることを説明した上で、理解が得られれば入居の継続も可能である。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時に守秘義務に関する誓約書を提出してもらい、プライバシーが確保できるよう徹底している。また、管理者は、職員が入居者との関わりの中で気づいたことをその都度伝えている。前回の評価で指摘のあったトイレの入口についてはカーテンからアコーディオンカーテンに改善されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、その日の体調や気分によってその人に合った過ごし方を支援している。入居者から外出希望があれば、予定になくても職員と一緒に出かけている。玄関を開けて海を眺めている方や玄関先で日向ぼっこをしている方、居室でテレビを見ている方など思い思いに過ごしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回リクエストメニューの日を設けたり、お弁当風にするなど入居者の希望を取り入れ、楽しめるような献立となっている。入居者から料理の仕方や味付けを聞いたり、野菜の皮むき・下膳・お膳拭きなど、本人ができることをしてもらっている。職員1名は入居者と一緒と同じ食事を取るようになっており、それ以外の職員も一緒にテーブルにつき入居者と会話しながら見守りや介助している様子が見えたりした。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は各自週2回の入浴であるが、週4回の入浴日のうち好きな時に入浴することができる。病気等で入浴の制限がない限りは本人のペースにあわせ、ゆったりと時間をかけて入浴を楽しんでもらっている。また、入浴を拒む方には無理強いせず様子を見ながら声かけし、誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴・趣味・特技等を余暇活動に取り入れている。短歌やちぎり絵などの入居者の作品を地域の文化祭に出品したり、ホーム内に飾るなど、入居者が張り合いを持って暮らせるように支援している。また、誕生日は毎月まとめて行わず、本人が生まれた日にみんなで祝いしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の買物・選挙等、入居者の希望に応じた外出を支援している。また、天気の良い日は散歩に出かけるなど日常的な外出支援も行っている。地域のふれあいサロンへの参加は、職員がその日の活動内容を入居者に知らせ参加希望を募るなど、一人ひとりの希望を大切にしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは鍵をかけることの弊害を理解しており、日中の施錠は行っていない。玄関に入居者の手作りの鈴つき暖簾がかけられており、人の出入りがさりげなく分かるようになっている。また、外出をしようとする時も連れ戻すのではなく、職員と一緒に出かけ、声かけをしながら本人が納得されるまで散歩に付き合うようにしている。近隣住民は入居者をよく理解しており、一人で外出しているのを見かけたらホームに連絡をもらえる関係になっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の緊急対応マニュアルが作成されており、緊急時には地区の防火隊・民生委員・米ノ地区女性消防隊等の地域からの協力がもたらえる体制が確立されている。また、ホーム独自の避難訓練を入居者にも参加してもらい実施している。 今後は、地区の防災訓練にも参加する予定である。		ハザードマップの超危険区域に立地していることを踏まえ、土砂崩れ・水害等の自然災害が発生した場合の対策に関しても避難経路・避難場所の検討が早急に求められる。また、非常用食料や飲料水等の備蓄も期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は近隣の老人福祉施設がカロリー計算して作成した献立を参考にして考えている。食事の盛り付けや形態も入居者に合わせたものにしていく。水分摂取が少ない入居者には、お茶以外の本人が好む飲み物を用意し確保できるようにし、摂取量についても記録している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはベンチが配置され、天気の良い日にはゆっくり日光浴を楽しむことができる。共有空間は、居間・台所・食堂がまとまったこじんまりとした空間であるが、テーブルやソファが置かれ、入居者が思い思いの場所でくつろげるように配置を工夫している。浴室は清潔に保たれ、脱衣場・浴槽も十分な広さがありゆったりと入浴が楽しめるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の使い慣れた馴染みの家具や小物等を持ち込み、本人の好みに応じてござやカーペットを敷くなど、その人らしい空間作りができるようになっている。		

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入所者と共に・自然と共に・地域と共に」の理念を昨年作り、利用者・スタッフと共にその人らしく、又自然、地域の方々と共に暮らせるよう努力しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はこの理念の考え方やケアの実践について、スタッフと共に取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内の祭り・地区ふれあいサロンに入居者と共に参加をし、又ホームの行事には家族も参加してもらえるよう努力しています。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩時、外出時に気軽に声をかけをしたり、遊びに来てくれるよう伝えている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し地区の祭り、ふれあいサロンに入所者と一緒に参加している。地域の方より魚・野菜の差し入れを受け食の楽しみになっている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の家を訪問し、話し相手になったり、介護について話を聞いたりして負担を和らぐようにしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年同様自己評価・外部評価の意義を説明し、全員で自己評価に参加して貰う、又、改善についてはミーティングを行い改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行い、家族、自治会、民生委員、町の職員、スタッフで構成し 現状報告・予定・実施事項を報告し委員の意見をもらい改善することはしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢福祉課に、利用者、家族、ホーム等の状況を話し、改善に向けより良い方向を見出せるよう助言をもらいカンファレンスで共有出来るよう取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し、スタッフの勉強会を開き情報の共有している、又成年後見人制度も活用実施している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し研修内容を解りやすく説明し虐待について真剣に取り組む、意識を持って防止に努めていく。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者、家族に十分な説明を行い理解して貰うよう努めている。又疑問についてはきちんと説明をしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見等を入れるポストを設置、意見等があれば改善するよう心がけて活きたい。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活便り、ホーム便りで暮らしぶりの報告をしている、又金銭管理については出納帳を面会時に確認していただいている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族等から何か要望がないかを伺い、改善できることがあれば改善に努めていきたい。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	金銭的な運営の問題に関しては本社との問題もあり職員間で解決はできないが、利用者のことに関してはカンファレンスを開き皆の意見を聞き改善に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は地元の方が多いため利用者の急変時には直ぐ対応ができるよう努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者が代わっても利用者には自然体で受け入れられるよう努めている、またスタッフの入れ替わりはないのでダメージを受けるようなことは現在はない。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は携わることなく管理者、ケアマネ、介護主任等で研修参加を勧めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設と連絡を取り合い、利用者のこと、行事等に参加しサービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は携わることなく、積極的な取り組みも無い		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は携わることなく職員の努力、実績、勤務状況の把握はされていない。全て現場のスタッフが励ましあいながらより良いケアの向上に努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所にいたるまでに、本人との話し合い、家族との話し合いの中でより良い方向性を見出せるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所にいたるまでに、本人が何を求めているか、どう過ごしてほしいかをしっかりと受け止められるよう努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け申し込みに記入をしていただくが、こういった方向性があるか、家族との話し合いの中から、他施設での紹介、在宅での利用の仕方など話し合うこともある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、スタッフとの信頼関係を築いていく中で、新しい利用者に対しても、戸惑いなく自然に馴染めるよう支援していく。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	問題集・カレンダー作りを利用者と一緒に行ったり、野菜の始末をし、料理に使い「さっきの菜っ葉か」と自分が参加したことに楽しみを持って頂く様支援している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	田畑の作っている家族からは野菜などの差し入れを頂き、漁業の仕事をしている家族からは魚を頂くこともある、利用者の方はどうして料理するかきき、又作っていただく時もある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時の説明の時、出来る限りの面会を、外出、外泊も出来る限りお願いしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時に友人・近所の方と一緒に連れてきてもらったり、散髪・買い物も出来る限り希望に添えるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居間でテレビ観ながら、興味のあるものには皆で興奮したり、悲しい話が聞こえてくるといりるなコメントが出たり、耳の遠い人には伝えながら同じ共感を味わえるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後でも他施設を訪問したり、自宅にて状況を聞いたりまた入所希望者宅を訪問し他施設の介護サービスを使用できるよう支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ること・出来ないことを把握し出来る限り希望を取り入れるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族よりアセスメントを行い、ケアプランに活かし少しでも本人の望む生活に近づけていけるよう努めていく。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録・申し送り・カンファレンスにて状況を把握し情報の共有に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報、親戚・友人・利用者からの思いを把握し何を重点にすべきかを重要視しながら作成に心がけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間中であっても、状態の変化があればプランの見直しを行い、家族にも状況の説明を行なっている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を把握し実践しながら毎日の実施記録を残している。また見直しの際には、担当スタッフがケアプランに対し評価を行い、良くなったところ、できなくなったことに関し評価を行い次のケアプランに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的にはホーム内での生活が主流となっているが、他事業所からの行事参加などの招待を受け参加している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム外の行事に参加する時にはボランティアの方に協力してもらったり、火災訓練時には消防署員に指導してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	経済的理由にて退所した方には利用者を他施設のケアマネと相談しデイサービス・ショートステイ等の利用が出来るように支援する。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの話し合いがあり必要に応じて話し合いを持ち入居希望者宅訪問なども行なっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2Wに1回主治医の往診を受けている、また専門的治療に関しては主治医の指示に従い看護師が付き添い病院受診している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な受診が必要な方は専門医に看護師またはケアマネが付き添い受診の支援をしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1日の健康状態を看護師に報告し看護師は主治医と相談しながら健康管理している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が必要になった時、主治医から治療方針を家族に説明、退院後についてはHPのカンファレンスに参加し状態の把握に努め、治療方針を聞きホームにて退院後の受け入れケアカンファレンスを行なう。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族の意向を聞き、主治医と話し合い方針を決めている。又ケアカンファレンスを行い方針を共有し、協力医の連携の下看取りの支援も行なっている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医・家族の意見を取り入れ本人の苦痛が少ないよう、又悪化防止についてケアカンファレンスを開き取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え時、利用者の情報をスタッフ全員と共有し新利用者に対しても他施設・家族より情報を収集し話し合いをしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉使いや接し方についてカンファレンスを行ないスタッフも意識を持ちながら取り組んでいる、また居室の入り口にはカーテン・トイレにはアコーディオンカーテンを取り付ける等工夫している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用所の希望に添えるよう利用者の声に傾聴し話し合いをし納得した暮らしが出来るよう努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の希望に添ったケアに取り組み、外出したい人には職員が付き添い外出し、自室で休みたい人は休みと本人の希望に添った支援をしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の希望のある美容院・理容室に行くことができる方はスタッフと同伴で行けるよう支援している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>鮮魚や野菜の差し入れがあったときは入居者も出来るところは協力してもらい、食の楽しみにつなげている、食後の片付けも手伝ってもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒・喫煙は原則禁止しています。その他飲み物、菓子等は各自好みに合わせて楽しめるようにしています。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の介助には、尿意の無い人は時間を見て介助し、一人で行ける方は見守り、介助することで失敗が少なくなり自信を持ち自立が出来るよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回になっているが、入浴日に拒否をしても曜日を変えて入浴する、又希望があれば入浴日にはいつでも入れるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冷暖房の好き嫌いを把握し室温の調整をこまめに行い、排泄面でも時間を見計らい介助し安眠につなげている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の楽しみとなるよう、趣味・特技を余暇に取り入れれ集中することで笑顔も多く会話も増え生活の張りが出てくるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る人は自分で行き、管理の出来ない人は管理者が預かり、出納帳に使用金額を記入し管理している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地区の行事、買い物、選挙、病院受診等希望に添って行い天気の良い日には海岸の公園におやつを持って散歩に行くなど支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域のふれあい、花火大会等に参加したり、希望があれば家族と外出できるよう支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求があればいつでも対応、掛かってきても話ができない方には伝えながらの支援、手紙などは読み聞かせることも支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は全ての方の受け入れを行なっている、気持ちよく話が出来よう支援している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事の理解は皆の意識の中に定着している又これからも取り組んでいきたい。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを理念としてケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人ひとりの問題行動のあるときの対応を話し、利用者のプライバシーに配慮しながら安全に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個人々に注意を要する物が違うがその人に応じて危険を防ぐ努力をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	細心の注意を払い、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員がいつでも対応できるよう研鑽を積みスキルアップしていく又救急対応の出来る研修にも参加していく。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域にて災害時救出の名簿にホーム内の全員が登録されている又避難訓練を年2回行なっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の意向を聞きケアカンファレンスを行い方針を共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	外見上は異変がなく、体調不良であっても訴えない場合も多く、バイタルチェック・排泄・食事摂取量などを把握し体調の変化の有る場合は速やかに情報を共有し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認に努めている、薬の効用も出来る限り理解できるよう努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の確認を取り、水分や身体を動かす働きかけを行なうなど、一人ひとりに向けた取り組みをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の人は夕食後洗浄し、洗浄液につけておき、自歯の方には歯を磨くよう声掛けを行なっている。また口腔内の異状の早期発見にも努めている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランスに気を配り、水分補給も随時行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを作り、食前には手洗い消毒、外出時にはうがいなどを行なうよう支援、また冬季には加湿器を使用など対策している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所専用エプロンを使用し、食器・調理用器具は乾燥機にて消毒を行なっている。また賞味期限なども確認している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外階段に手すりを取り付け安全に出入りが出来るようになり、表札なども見やすくし、プランターにも小花を植えている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くはないが、窓からの景色で季節を感じることもでき、玄関には利用者の活け花があり、ホームでの行事の写真等も掲示してある。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地の良い場所を見つけ、思い思いに過ごされている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や使い慣れた物や品が飾ってあり、その人らしい空間作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には、空気清浄機・冷暖房などが取り付けてあり、こまめに調整を行なっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はフローリングにしてあり手すりが設置されている、手すりを利用したりハビリティも出来るようになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとり個別に対応したケアプランの下に支援、ケアを行なっている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横の広場にて日光浴をしたり花壇作りを楽しんでいる。また玄関前の手すりを利用し歩行訓練も行なっている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者、ケアマネが勤務のシフトに入らず利用者の不満・不安・悩みなどに耳を傾けている、また介護主任も日勤帯を多くし他のスタッフの育成、利用者の支援に取り組んでいる。 玄関には温かみのある表札に作り変え、中段には花一杯に飾り付けをし利用者、来訪者の目を楽しませることができました。 スタッフには地元の人が多く利用者の急変時、緊急時に直ぐ対応が出来る安心感があります。。